

緑肥で化学肥料2割減

イネ科すき込み野菜栽培

エン麦やソルガムといったイネ科の緑肥作物を春～夏に播種(はしゅ)してすき込むと、その後で作る野菜は化学肥料の削減を見込めます。千葉市の島田祥成さんは、エン麦をすき込んだ畑で、肥料を2割減らして秋冬ニンジン栽培をしています。生育は順調だといいます。

緑肥は、土づくり効果や連作障害対策を期待する場合がありますが、うまく使えば肥料の使用量を減らせます。イネ科の緑肥は、雨などで土壤中に流出し

やすい窒素やカリを吸い上げます。すき込めば、流出していたはずの肥料を有効活用できます。流出しにくいリン酸も、緑肥をすき込むことで微生物の働きが活発になり、農作物が利用しやすい形に分解されます。

秋冬ニンジン1.5haを栽培する島田さんは今年、千葉県農林総合研究センターに協力して試験栽培を行いました。エン麦をすき込んだ5aの畑に「愛紅」を作付けしました。従来は元肥として、窒素とリン酸、カリを各8%含

む化学肥料を10a当たり100kgまいていましたが、同80kgにしました。鶏ふん堆肥は従来通り同200～250kg散布しました。

収穫はこれからですが「試し掘りでは生育に問題はない」といいます。島田さんは、改定前の今春の価格で肥料代を同2,790円削減できたと試算しています。その後の価格上昇で、削減効果はそれ以上と見込みます。

エン麦は「ハイオーツ」を3月

減肥効果が見込める主な緑肥作物

	イネ科	マメ科
作物	ソルガム、エン麦、ライ麦など	ヘアリーベッチ、クロタリヤなど
肥料効果	<ul style="list-style-type: none"> • 土壤中に流出した窒素やカリを吸い上げ、すき込むことで有効活用 • 流出しにくいリン酸も、微生物を活発にして農作物が使える形に分解 	<ul style="list-style-type: none"> • 根に共生する根粒菌が、空気中の窒素を植物が吸収できる形に変換。農作物に窒素分を供給
注意点	<ul style="list-style-type: none"> • 肥料効果は品種やすき込み時期などによって異なる • ハンマーナイフ式の草刈り機の導入代、種子代、緑肥自体への施肥コストなどがかる場合も 	

(農研機構の「緑肥利用マニュアル」を基に作成)

上旬に同10kg播種しました。5月下旬にハンマーナイフ式草刈り機で細断し、ロータリーですき込みました。すき込み時の草高は80cm～1mが目安で、その後2カ月間腐熟させました。ニンジンは8月上旬～中旬に播種し、11月～翌年3月に収穫します。

(日本農業新聞 2022年11月24日)

農業技術ピックアップ

イチゴ種苗の安定供給・コスト削減を目指して

よつばし種子の簡易な長期保存方法

種子繁殖型イチゴとして2015年に「よつばし」が国内で始めて実用化され、種苗会社によるセル成型苗と種子の供給が開始されました。種子繁殖型イチゴの普及を進めるには、種苗の安定供給やコスト削減が必須であり、採取した種子の発芽率を高く維持したまま保存することが重要です。そこで、種子を保存するときの温度や湿度の影響を検討し、安定した発芽率を得られる簡易な保存方法を明らかにしました。

採種後の発芽率には、湿度、

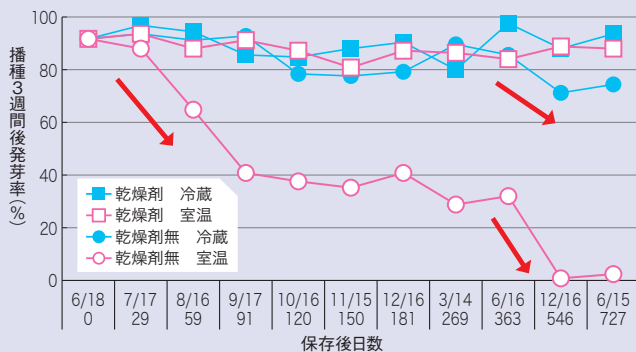
温度および保存後の日数が影響しますが、このうち湿度の影響が最も大きく、乾燥剤(シリカゲル)を含まずに保存すると、室温では

保存後59日、冷蔵(5℃)でも保存後727日には発芽率が低下します。

密閉した容器に、種子0.2g当たり10g程度を目安に乾燥剤を同封して、5℃で冷蔵保存した保存年数の異なる「よつばし」の種子の発芽率を調査したところ、保存期間 0.3～7.4年の範囲内で

は、播種3週間後の発芽率に差は認められず、イチゴの種子は乾燥したまま冷蔵保存することにより発芽率の低下を抑えて7年は保存できます。

ただし、乾燥剤の種類や密閉程度により効果が異なる場合があります。6か月に1度は乾燥剤の状態を確認し、効果の低下を示す色の変化がある場合は、速やかに乾燥剤を交換する必要があります。



お問い合わせ先

生産技術研究室 野菜園芸研究課
☎0598-42-6358
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

農業を営むすべての方に 農業経営資金

- トラクター・ドローンなどの農業機械購入
- 生産管理システムなどの先進技術導入
- 農地購入
- 農業運転資金
- 栽培用ハウス・畜舎建設
- その他農業経営に必要な資金

農業経営に必要な資金として幅広くご利用いただけます

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連

当初3年 最大年 1%

利子補給

農業者の皆さまを応援するため JAバンク利子補給制度で金利負担を軽減します。

【取扱期限】 2023年3月31日